

## 「最上川流域の紅花システム」の概要

### 【農林水産業システム名】

最上川流域の紅花システム

～歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～



紅餅

### 【申請団体】

山形県紅花振興協議会（会長 山形県知事 吉村美栄子）

### 【申請地域】

最上川流域（山形市、米沢市、酒田市、天童市、山辺町、中山町、河北町、白鷹町）

### 【システム概要】

最上川流域では、「赤」の染色用植物である紅花を、肥沃な土壌や気象条件を活かして450年前から生産している。紅花は、地域在来作物との輪作や二毛作、水稻等との複合経営などにより持続的に生産され、生計の保障に貢献するとともに、地域特有の食文化を育んできた。

染色用原料「紅餅」は、江戸時代、最上川舟運と北前船交易で全国に輸送され、日本の伝統的な装束、神事の赤色として欠かせないものとなった。現在も、紅花の栽培から紅餅づくりまでを生産者自らが行っている。

紅花は中近東を起源とし、シルクロードを経て日本に渡来したが、現在でも染色用紅花の生産が現存するのは世界のなかで最上川流域だけである。

紅花システムは、農作物や食文化の多様性を創出するとともに、日本の伝統文化の成立に貢献するなど、生物文化多様性を実現してきた。その世界的重要性や価値が評価され、世界農業遺産への認定申請が承認された。



### 【今後の対応】

今後は、世界農業遺産の認定を目指し、FAOへの申請に向けて準備を進めていく。